

堀江紗音

戦争映画分析

日本の戦争映画が人々に与える影響

——米国の戦争映画との比較から——

要旨

本研究は、映画というメディアにおいて、日本人の歴史認識や平和意識がどう反映されているかを読み解き、日本の戦争映画が人々に与える影響について明らかにするものである。「日本の戦争映画は、米国の戦争映画に比べ、敗戦の心理的影響を背景に戦争への反対意識を促す表現が多く含まれている」という仮説を立て、戦争体験世代と非体験世代によって制作された日本映画を比較するとともに、米国映画と対比し、両国の戦争に対する表現の違いや傾向を分析した。

分析対象として、日本の2010年代以降の作品である『永遠の0』『ラーゲリより愛を込めて』『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』を中心に上げ、米国映画の『アメリカン・スナイパー』『プライベート・ライアン』との比較を行った。

分析の結果、日本の戦争映画は戦争の是非を直接的に批判するのではなく、個人の感情や喪失、命の尊さを強調する構成を通じて情緒的な共感から戦争への拒否感を喚起しており、本研究の仮説は概ね支持された。一方で、米国映画では兵士の英雄性や国家的使命が感動の中心に据えられ、正義の遂行や自由の防衛という大義のもとで語られる傾向が確認された。こうした違いを比較することで戦争映画が国民意識の形成や歴史的認識の共有に果たす役割を可視化することができた。